

YAMANASHI

# おたけ



あじさい

介護保険制度の充実に向けて

山梨県老人保健施設協議会 新役員紹介  
第1回介護老人保健施設北陸甲信越地区長野大会開催される  
老健における看護部会の役割  
オーストラリア福祉研修記  
施設訪問記 サンビューかじかざわ  
施設紹介 峡南ケアホームいいとみ・しおかわ福寿の里

# 介護保険制度の 充実に向けて



山梨県福祉保健部  
長寿社会課長

小松重仁

平成14年度も早くも2ヶ月が経過いたしました。山梨県老人保健施設協議会の皆様には、平素より本県福祉保健行政の推進に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げますとともに一言ご挨拶を申し上げます。

さて、介護保険制度は、従来の老人福祉と老人医療の制度を再構築し、介護を必要とする高齢者を社会全体で支える新しいシステムとして、平成12年4月に創設されました。

本年度は、施行3年目を迎え、介護保険制度の理念や仕組みが浸透し、基盤整備や事業者の参入が進みつつある一方で、地域住民の介護サービスへの関心も高まり、利用意向の増大やサービス内容への要請の多様化などが顕著となっております。

また、介護報酬や保険料の見直し、サービスの質の向上、施設と在宅のバランス、医療保険との役割分担など、いくつかの課題も指摘されております。

さらに、各自治体において、これまでの制度運営の状況を踏まえ、平成15年度から平成19年度までの5年間を計画期間とした「第2期介護保険事業計画」が、平成14年度末に策定されます。

これは、制度が実際に動き出してから初めて行われる計画の見直しであり、介護保険制度の更なる充実のため、介護サービスの基盤整備や質的向上と併せ、介護予防・生活支援等も含めた総合的な施策の推進を目指すものであります。

このように、介護保険は創生期から内容の充実の段階になっておりますが、様々な課題を乗り越え、高齢者福祉の基盤となる制度として将来にわたって発展させていく必要があります。

このような状況の中、本県の介護老人保健施設は、平成14年5月現在で、24施設2240床が開設されておりますが、今後も計画的な整備の推進に努めて参りたいと存じます。

また、併せて平成14年度の重点施策に「介護サービスの質の向上」を掲げ、介護支援専門員に対する研修や窓口相談などの支援事業、サービス評価や痴呆介護研修、身体拘束解消の推進など様々な施策に取り組んで参ります。

老人保健施設は、昭和63年の制度創設以来、介護老人保健施設への移行から今日に至るまで、地域や家庭に開かれた総合的ケアサービス施設として、地域の福祉・医療に重要な役割を果たされ、県民の期待もますます高まっております。

これは、ひとえに各施設の皆様のご尽力と、山梨県老人保健施設協議会の積極的な活動の成果によるものと、あらためて深く敬意を表する次第であり、介護保険制度の一層の充実のため、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年度

# 山梨県老人保健施設協議会 定期総会開催



5月24日(金)、ベルクラシック甲府を会場として、平成14年度山梨県老人保健施設協議会定期総会が開催されました。今回は、今年4月にオープンしたばかりの勝沼ナーシングセンターを加えて、全24施設の代表が参加して、活発な意見交換や討議がなされました。

冒頭、島津寿宏会長からは、介護保険制度三年目を迎えて、介護サービスの質の向上に向けて各施設の奮起を促す挨拶があり、次いで山梨県長寿社会課小松重仁課長から、行政として新しい介護保険事業計画の策定の中で、介護保険制度の充実のために努力したいとし、また、各施設においても、身体拘束の解消を進めることによって、高度の介護サービスにつながるさまざまな工夫、努力をお願いしたいとの言葉がありました。

平成13年度の事業報告・決算報告に引き続き、平成14年度の事業計画と予算案が承認されました。予算面で大きく配慮されたのは、研修費を大幅に増額したことであり、会場確保、大会運営の合理化を通じて、実践事例発表の成果にいっそう期待した内容となっています。

定期総会は、5つの議案を承認して終了しましたが、老健施設でも多量に使用しているオムツについて、環境問題が世界的にクローズアップされる世相において、廃棄物としての処理がますます困難になっていくことに、今後どのように対処するか考えていかなければならないと建設的な意見も出ていました。



# 山梨県老人保健施設協議会

## 平成14～15年度 新役員紹介

会長	島津寿宏	甲州ケア・ホーム	
副会長	跡部勝朗	峡北シルバーケアホーム	
理事	深澤敏男	つる	研修委員長
	山田外記	ケアセンターいちかわ	広報委員長
	輿石詔三	NAC湯村	福利委員長
	臼井行夫	甲府相川ケアセンター	研修委員
監事	川崎光洋	峡西老人保健センター	
	保坂久	いちのみやケアセンター	
顧問	島津寿秀	甲州ケア・ホーム	

## 専門7部会 新部会長紹介

看護部会長	大津充子	ひばり苑
介護部会長	山岸修	ひばり苑
支援相談員部会長	堀内貴弘	NAC湯村
リハビリ部会長	松沢利行	NAC湯村
栄養士部会長	新海桂子	甲府相川ケアセンター
通所リハビリ部会長	清水愛子	甲府相川ケアセンター
事務長部会長	山本幸一	甲州ケア・ホーム

## 第1回 介護老人保健施設 北陸甲信越地区長野大会 開催される

北陸甲信越地区6県における初めての地区大会が、長野市・ホテル国際21で、6月13日(木)、14日(金)の2日間に渡り開催されました。

「自立支援と利用者本位のケアをめざして」～“中間施設”としての介護老人保健施設の取り組み～をメインテーマとして、講演とシンポジウム等が行われ、山梨県支部からは、60名程の施設職員の参加者があり、各職種から8演題が発表されました。

### ▶ 山梨県支部演題

「お支払いは?…」	介護職	碓井浩人	峡北シルバーケアホーム
拘束解消への取り組み	介護主任	日川浩幸	甲府南ライフケアセンター
チームアプローチと連携	看護師	植松晴美	甲州ケア・ホーム
適時適温給食に移行して	管理栄養士	小林美佐	ノイエス
家族のきもちに伝えたくて	介護支援専門員	田草川智恵美	峡西老人保健センター
QOLの改善を目指した車椅子の改造	施設長	深澤敏男	つる
当施設における身体拘束解消の取り組み	看護師	高村真由美	つる
精神的・身体的自由を求めて	介護福祉士	佐野広幸	ケア・ホームいいとみ

# 老健における看護部会の役割

看護部会長 大津 充子



高齢社会に突入し、介護保険制度が始まって3年目となりました。

山梨県老健施設協議会においても、各部会の活動を軌道に乗せ、県全体のレベル向上の為に努力しておりますが、まだまだ多くの課題を抱えているのが現状です。

看護部会としては今年度の方針として、もう一度原点に戻って、老健施設の理念と役割を確認するとともに、それぞれの施設に於ける地域の実

情に即した理念についても認識したいと考えています。

そのため、本年度は3回の研修事業を行います。第1回目は、皆様からのアンケートをもとに「看護の質を高める」ための意見交換を行い、運営の仕方や年間スケジュール等を決める予定です。第2回目は、その課題についての講演・研修を行います。第3回目は、介護部会と合同で継続性のあるテーマについて研修を行うこととします。

老健における「看護」では、日常生活支援の中で、看護独自の判断で行うものが多く、そのことが病状の悪化を防ぎ、自立への支援に結びつく様な事例がたくさんあります。また、家族が安心して看護するために、といろいろ考えても個々の事情により様々です。そんな時一人で悩むのではなく、他の施設の多くの仲間たちとの交流の中で、研鑽していく必要を感じています。

私達は、他の職種とも協力して、お互いの専門性を尊重しながら運営して参りますので、研修会には一人でも多くの参加と、ご協力をお願いいたします。



# オーストラリア福祉研修記

あさひホーム 支援相談員 五味 卓弥

平成13年度の海外研修地は、オーストラリアでした。メルボルン、シドニー、ゴールドコーストの関係福祉施設3ヶ所を視察見学して、老健施設に近いものが2ヶ所でした。以下施設内容と感想を紹介いたします。

## メルボルン

### コールフィールド総合医療センター

高齢者看護、高齢者精神医学、リハビリテーション、地域の医療リーダー的存在として知られている。ベット数250、科数40、スタッフ1,000名を擁し、年間予算5,000万豪ドルで運営されている。国立認定機関（オーストラリア医療基準評議会）の認定を受けていて医学分野全般にわたって質の高い医療奉仕を行い、患者に欠くことのできない広範囲な看護を提供している。

治療プログラムは、患者のニーズに焦点を充てて作成されており利用しやすい、かつ柔軟で結果を重視した医療奉仕を通じて、患者が独立した生活を営めることを目指しているとの事。

## シドニー

### ホーンズビー・クーリングイ病院 & 地域ヘルスサービス

シドニー大学と提携した認定教育病院である。シドニー市の中心から北へ30キロに位置し、シドニー北部ヘルスにより運営され、5つある公立病院のうち2番目の規模を誇っている。この機関は急性期内科、外科広範囲な地域サービスを提供する目的があり、また地域全住民の健康増進、保健の認識向上を促進している。一般開業医、地域サービスの連携による境界線のないケアの提供を実施しているとの事。

制度として、「高齢者ケア評価チーム」（各職種の専門家の集まり）がある。オーストラ



リア全土で利用できて、連邦予算で運営されている。日本で施行されている介護保険のようなものだと感じた。

## 視察見学の感想

オーストラリアの医療・保健・福祉を視察して感じたことは、日本と比較すると表面的ではあるが、差ほど変わらないと思えました。

しかし、個人の物の考え方が若干違い、世話をされる方も、する方も、「いかに自立した生活を助けるか」、つまり「余計な面倒はかけない、みない」という考え方もあるのだ、ということ気付かされた気がします。





正式名称は、鯉沢社会保険介護老人保健施設と言い、平成12年の4月、つまり介護保険の施行と同時期に開設した施設です。今回はこの3年目に入ったばかりの新しい施設を訪問しました。鯉沢町と言っても、ほとんど増穂町との境に位置する広い土地に、長い歴史を誇る社会保険鯉沢病院が移転新築したのが3年前。その新鯉沢病院の広い敷地内にサンビューかじかざわはあります。身延線の鯉沢口駅からはそこそこの距離がありますが、国道52号線から少し入った所にあり、駐車場も非常に広いので便利です。今日は竹重副施設長と穂坂看・介護課長にお話を伺いました。

### 他の施設と異なるサンビューならではの特色は？

サンビューかじかざわは、その土地も建物も、更に諸々の器具備品も全て国が整備しており、非常に恵まれた環境にあります。国からお預かりしている施設・備品ということで、職員も大切に扱っています。

運営を担当しているのは東京に本部がある全社連という社団法人で、全国に53ヶ所ある社会保険病院の経営と運営を国から委ねられています。実は、サンビューというのは、全社連が展開している全国チェーンの老健施設の共通の愛称で、現在北は北海道から南は宮崎まで、28ヶ所の老健施設がグループ展開されている、と聞いて驚いてしまいました。

### 施設の特徴は？

開設してまだ丸2周年。とにかく職員が若い。ほとんどの職員が、新規開設時に新卒の新社会人だったとのこと。現在でもほとんどの職員が20代前半ということで、そのせいか施設内に若々しいエネルギーが充満しています。みんな明るくて、元気がいい。

しかし、副施設長いわく「職員が若いことは、うちの施設の長所には違いないが、若さ故の課題も大きい」となかなか厳しい見解を

示しました。平均年齢85歳以上の入所者と余りにも年齢差がありすぎて、良き話し相手になりにくい、職員同士友達感覚から抜けきれない云々。そんな課題を乗り越えるべく、職員が一丸となって改善のための努力に取り組んでいるとのこと。

また鯉沢病院の併設ということで、入所者の急変時には、親病院を挙げてのバックアップ体制が整っています。そのことが利用者のご家族に大きな安心感を与え、地元から確固たる信頼を獲得する大きな要因となっているようです。

### 施設運営上で、特に心がけていることは？

施設のキャッチフレーズである「家族の心で、家族とってお世話させていただく」と「いつも明るく笑顔を絶やさない」の2つを、いつも念頭において入所者に接しています。サービス提供の具体面では、リハビリに特に力を入れている模様。ここでは、常勤で専任の理学療法士と作業療法士がそれぞれ1名ずついて、他の老健施設では余りやっていない個別リハにもかなり積極的に取り組んでいます。5月からは、県内の老健施設ではまだまだ少ないリハビリ体制の強化加算の届け出をしていると伺いました。新施設がそのエネルギーを一杯一杯充実させて前向きに取り組んでいる姿に接して、今後のますますの活躍が楽しみです。



### 施設の概要

入所定員	100名（短期入所も含む）
通所定員	20名
協力病院	社会保険鯉沢病院
協力歯科	早川歯科
所在地	〒400-0601 南巨摩郡鯉沢町340 - 1
電話番号	0556 - 22 - 7301 F A X 0556 - 22 - 1665
設置主体	国（社会保険庁）
運営主体	社団法人全国社会保険協会連合会

# ● 施 ● 設 ● 紹 ● 介 ●

## 峡南ケアホームいいとみ

**峡**南ケアホームいいとみは平成7年4月より山梨県内で46%という最も高齢化が進む地域にあり、お年寄りが増加し、ひとり暮らしや老人だけの世帯も増えている中、住み慣れた我が家に一番近い所で、頼りになる施設としてご利用頂けますようお願いいたしました。



入所定員54名（痴呆30名）・通所リハビリ12名、併設の飯富病院は一般病棟61名・療養病棟26名これに訪問看護ステーション・ヘルパーステーションをも併設しており、寝たきりにならないよう通所リハを実施し、病院から自宅リハビリテーションに向かっています。また町保健婦・ケアマネージャー等と連携をとり早期からのケアプランに反映させ、より長く健やかに家庭で生活出来るよう援助して行く重要な役割を担っています。緊急時には病院スタッフのバックアップも得られ、往診等も速やかに行われ少しは家族の皆様も安心できると思います。

ご利用の皆様には毎日の張りを持って戴けるよう日課とし、運動・作業・音楽・ゲーム等を利用者の状態や関心を配慮しながら実施しています。月の行事として誕生会やお花見・遠足・盆祭り・節分・クリスマス会等、ボランティアの小中学生・保育園児・一般等々皆さんと共に楽しく参加して戴いています。

明日は我が身と思い、ご利用者側になり「少しでも此処にいて楽しいよ・心休まるよ・ありがとう・また来るよ」と云って戴けるよう、職員一同、一歩でも前にと頑張っております。

## しおかわ福寿の里



**し**おかわ福寿の里は須玉町と明野村が設置主体の一部事務組合で運営する施設として、平成7年4月に開設しました。

昨年は須玉町で「全国植樹祭」が開催され注目を浴びましたが、その静かで恵まれた自然に加え、鳥のさえずりと、澄んだおいしい

空気のごちそうが日々楽しめる環境にあります。

入所定員70名・通所定員20名で居宅介護支援事業所を兼ね備え、施設入所サービス・居宅サービス（短期入所療養介護・通所リハビリテーション）を提供し、介護保険制度下での要介護者の在宅復帰・在宅生活及びその家族の介護をサポートしています。また、併設する塩川病院においては、緊急時の対応等にも協力してもらっています。

当施設の在宅復帰率は昨年度でも80%と非常に高く、地域の在宅支援にはなくてはならないものとなっています。

それというのも、設置主体が町村であるということで、地域行政との意思疎通・連携がとり易く、併設する塩川病院・訪問看護ステーション、隣接する地域社会福祉協議会との協力体制が強固なものにあり、地域介護支援専門員の連絡協議会へも参加することにより綿密な連絡、話し合いの中で、利用者一人ひとりのニーズに合わせ、退所後のフォローもしっかりできているからです。

施設内では、「和やかで親しみやすい、家庭的な雰囲気」と職員が心掛けており、毎月、職員による誕生会やおたのしみ会が行われ、これとは別に、地域の保育園、小・中学生、ボランティアグループ、少年少女合唱団との交流など、たくさんの方の善意の訪問が多いのも入所者の楽しみの一つとなっています。

## シリーズ さくひん



あじさい

この作品は、通・入所者と職員とのチームワークによる合作です。

ケアセンターいちかわでは、毎年6月になると増穂町にある妙法寺、通称あじさい寺へバスハイクに出掛けます。利用者の家族も一緒に出かける、大きなイベントの1つになっており、利用者はこの時期を心待ちにしています。この作品を作ることにより、ますますバスハイクが楽しみになった様子です。

今度は大きなたてる坊主を作ろうかと利用者のほうから声が上がりました。

ケアセンターいちかわ

作業療法士 饗場明子

## 編集後記

山梨県老人保健施設協議会広報委員長として承認され、平成14年度「ろうけん・第11号、12号」・15年度「ろうけん・第13号、14号」を発行するにあたり、各広報委員の皆様及び㈱少国民社のご協力を頂き広報誌「ろうけん」を通じ、介護老人保健施設の役割を広く伝えられるよう、職務を遂行して参りますのでよろしくお願い致します。

老人保健施設の理念である、利用者の自立した生活を営むことを支援し、家庭復帰をめざし、また施設を明るく家庭的な雰囲気を持ち、地域や家庭との結びつきを目指すよう、各施設とも取組みを図るようよろしくお願い致します。

広報委員長 山田 外記

## 山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会  
広報委員会

事務局 〒406-0032  
山梨県東八代郡石和町四日市場2031  
甲州ケア・ホーム内  
TEL.055-263-0242  
FAX.055-263-2250

制作 株式会社 少国民社  
甲府市丸の内二丁目7-24  
TEL.055-226-2125